



青い空 緑の山と風
 黄色のうねりは
 人類の理想 文化を表わす。
 それらが混然一体調和して
 ロータリーの理想に向って
 昂って行く姿を示している。



Weekly Report

クラブの標語 **多摩の礎となる**
 ...I serve の精神で...

第345回例会報告 (12/3)

(1997年~1998年度第22回例会)

- 司会 SAA委員会 中山 登
 ◎点鐘 会長 吉澤 洋景
 ◎国歌斉唱 ロータリーソング「我等の生業」
 ソングリーダー 菊池 敏
 ◎「四つのテスト」唱和 R情報委員会 遠藤 二郎
 ◎お客様紹介 会長 吉澤 洋景
 東京調布RC 山崎 文昭様
 東京八王子南RC 泉 三郎様

◎会務報告 会長 吉澤 洋景

I 理事会報告

- 6名の会員候補者の推薦があり、全員を承認、その氏名詳細は配布別紙を参照頂きたい。
- 長谷川明宏会員の現職退職に伴う職業分類の変更について、これを学芸欄の幼稚園とする。
- 本年度、職業分類の見直しについて、職業分類委員会に諮り委員会の拡大をして分類項目を検討する。
- 中山順一郎会員の退会に伴う委員会組織の修正につき、
 ①クラブ会報委員会の副委員長には同委員会委員の福島達也会員。

②環境保全委員会の委員は当面空席とする。

5. 親睦委員会提出のクリスマス例会・クリスマスパーティーのプログラム案について、別紙提出案の一部訂正を以て承認。
6. 親睦委員会提出の日帰り親睦旅行の計画につき、これを承認。
7. 次年度、分区代理受託につき、これを承認。

II 地区より

1. 個人又はグループでボランティア活動をしている方を知らせて頂きたい。
2. RIの国際ボランティアへの登録を希望される方を推薦頂きたい。

◎幹事報告

幹事 村上 久

1. 新会員ロータリー情報セミナー1月26日開催
2. 進入会員候補のお知らせを配布しました。異議ある方は12月9日(火)までに文書にて申し出てください、申し出のない場合は認めたこととなります。
3. が+事務局に10月度の出席率88.89%と提示しました。
4. 例会変更の連絡が来ています。回覧します。東京日野RCと東京武蔵府中RCです。

委員会報告

◎ニコニコBOX

親睦活動委員会 根本 泰守

- 山崎 文昭(東京調布RC)…初めて貴クラブでメイクさせて頂きます。
 吉澤 洋景…ようやく冬らしくなりましたね、泉三郎様ようこそ、卓話をおねがいいたします。
 田島真由美…泉先生の卓話楽しみです。
 関岡 俊二…泉三郎様ようこそ、卓話楽しみにしています。
 赤尾 恭雄…泉三郎様ようこそ、卓話楽しみにしております。

東京多摩グリーンロータリー・クラブ

会長：吉澤 洋景 委員：福島 達也・伊澤ケイ子
 幹事：村上 久 加藤喜三郎・小泉 博
 会報委員長：田畑 博 大熊 将夫・宿院 利幸
 副委員長：~~中山順一郎~~ 高村 弘
 例会場 京王プラザホテル多摩(たまつばき)

事務局：東京都多摩市落合1-43
 京王プラザホテル多摩 561号
 TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491

例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

杉野志保子…ロータリー財団寄付ありがとうございました。

まだの方来年の6月までOKです、よろしく。

森田 舞子…今冬初の冷え込み、富士の霊峰とてもきれいでした。

山崎 光一…寒くなりましたね。

萩生田茂夫…お茶代のおつりです。

根本 泰守…11月20日イスタンブールトブカピロータリークラブメイクして来ました。

本日合計 金15,417円 (累計 635,804円)

◎関岡親睦活動委員長 クリスマス家族親睦会及びチャリティバザー出品について

臨時特別親睦旅行来年3月1日(日曜日)東京湾アクアライン日帰りバス旅行を計画しております。

◎出席報告 出席委員会 須藤 起雄

会員総数 55名
出席義務者数 54名(出席免除者1名)
出席者数 47名 欠席者数 7名
本日出席率 88.89%(48/54)

11/26	訂正出席率	88.89%	(48/54)
11/19	最終訂正出席率	88.89%	(48/54)

欠席者 北村 幸彦、宮本 誠、小形 勝子、高村 弘、戸田 昭寿、津守 弘範、横倉 譲
メイクアップ

北村 幸彦 11/27 丸子RC
11/18 東京新宿RC
杉田 誠 12/1 東京調布RC
伊神 稔 11/28 東京荏原カメラRC
高野 範城 12/2 東京多摩RC
宮本 誠 12/2 東京多摩RC

◎卓話 「今、リーダーにもとめられるもの」

東京八王子南RC会員 作家 泉 三郎様
皆様、今日はお招き頂きまして有り難う御座います。私の多摩ニュータウンのこのあたりが大変好きで時々こちらへお邪魔しております。こういうところに住めると良いなと思っているんです。これから機会があればほんとこのあ

たりに一度住みたいと思って居ります。今日はたまたまタイトルを「今、リーダーにもとめられるもの」と云うことになりました。丁度一年くらい前に堂々たる日本人というタイトルの本がでましてこれは副題に知られざる岩倉使節団の概要を紹介し尚かつ今日どういう意味をもつかということを書いた本なのであります。今日皆さんが感じられている様に日本人が卑屈になってるとか特に対外的にすぐべこべこお辞儀して謝ってしまうとか、或いは軟弱であるとか、ふらふらしてるとか、しんりが無いとか、すぐ考え方を変えてしまうとか、勇気がないとかそういうふうな面が目立っているわけで、それが有るためには実は日本人にはもっと毅然とした颯爽としたそれこそ堂々とした日本人が現在でももちろんいらっしゃるわけだけれどもかつて特に居たはずだと、それがどうも岩倉使節団、明治の初期のメンバー或いは彼らの旅を見ていくとそこから感じられるということで、堂々たる日本人というのも編集者のほうでこれはどうだろうということで付けた名前であります。けれどこの明治の初期の我々の先代の中にそういう日本人の良さのそういうものを感じ取ろうというものがあります。今日は岩倉使節団を材料にしながら今日与えられたテーマのことを話していきたいと思います。岩倉使節団のことをちょっと紹介しますと24年から26年にかけて日本のトップリーダーでありました岩倉具視、大久保利通、伊藤博文、その連中の他に50人ぐらい各省のエリートが付いていきまして、いわば国家見学といえますか欧米諸国を回ってこれから新しい国作りをするにはどうしたらいいか青写真を書きに行った調査隊だったということがいえると思う。司馬遼太郎さんがこの岩倉使節団のことを称してよくも世界を見て歩いたなというっておられますが、この旅行を巨大な長期合宿だったという風なことをいっておられますが、実際に大変な旅を致しました。廃藩置県が行われた4ヶ月後に使節団が派遣されるわけでありましてけれども12カ国632日間という大変な旅であります。そして彼らは政治、経済、人事、外交、文化、教育、宗教ほとんど全面にわたって見てきた。しかも各国を視察しながらスエズ運河が開通していましたのでそこを通って帰ってきたわけですが、その途中で中東或いはアジアの諸国も見て帰って来た。帰ってきてからの日本の國作りに大変大きな影響を与えたということになるわけです。この使節団は幕末からは欧米にはけっこうな使節団はいろいろ行っておりますが、この

使節団が特に重要なのは政府のトップリーダーが行ったということだろうと思います。トップが決断しないといくら課長クラスが行って勉強してきて進言しても社長が決断して実行しない限り、実際の政治に反映されないわけですが、この岩倉使節団の場合には本当のトップリーダーが行ったということで帰って、きて見たことが日本の政治のうえに活かされて来た。この岩倉使節団の記録が米欧回覧実記の報告書に全5巻あります。

そして、今なぜ岩倉使節団かという丁度時代の大変化の時期にいま来ているわけです。幕末から維新の時というのも世界的に大きな変化の時代でありました。そして一番大きなきっかけは蒸気機関だと思えます。鉄道や船に応用されることによって交通通信機関の革命的な変化が起きます。技術革新の結果として世界が一つになってきた。

現在はどうかといいますと、皆さんご承知の通りジェット機がこれだけ世界中を飛び回りそして電波がまさにリアルタイムで全て世界中のことが解ってしまう。コンピューター、インターネットという時代になりまして、こないだ宇宙遊泳が土井さんがやりましたがこの技術革新が猛烈なことになってきて、今我々その渦中にいますからいかいど気が付かないことが有るかもしれない。この人類の歴史上でもこんな大変化の時代は少ないかもしれない。色々なことが変わらざるをえない、金融のビックバンも始めとして大変化が現実には起きている。幕末に黒船がやってきてペリーがやってきてまさに平和な江戸の日本が混乱の時期に入るわけですが、今の日本も1985年もう10年ぐらい前からブラザ合意があって、ベルリンの壁が崩れて、いま日本ではバブル弾けてここ10年近く或る意味で日本は混乱の時期に入っているふうに思っています。恐らくこの混乱は或いは10年も続くのかもしれない。その中で僕は過渡期だと思う。この中で新しい道を模索していかなければいけない。今迷うのも当然な状況にあるのかもしれないと思います。そういう時期に岩倉使節団というか我々の先輩は実に思い切ったことをしたものだと思う。当時政府の中心人物は西郷隆盛と大熊重信と三条実美という公家がいた。当時トップリーダーの三分の二が外に出たなと思っている伊藤博文はまだ若くてまだ次の世代のリーダーでありました。後々大変影響が大きいことに物語ることになるわけですが、そして日本の國をどう持っていったらいいかとつぶさに見て、そこから結論をだしたことになると思います。現代も今の状

況に合うんです。よく似ている。我々はもうアメリカにもヨーロッパにも学ぶことがないなどと云う人が居ますけど、そうではなくていまアメリカにもヨーロッパにもアジアにもアフリカにもインドにも中国にも学ぶべきことはごまんとあると思えます。謙虚に原点に戻ってこの日本の戦後の50年或いは明治以降の近代化120年これを振り返って原点に戻って考えてやっては如何なものかなと考えることはということであろうと思います。何故使節団がアメリカでもイギリスでも大歓迎されまして、どこでもアメリカでは例えばグレント大統領であるとかフィッシュ国務長官、イギリスはビクトリア女王、首相はグラットストーンでありましたが、フランスではチエル大統領、ドイツではビスマルトンとそういう人と会って話をしております。向こうの新聞が伝えておりますが、日本の使節団が堂々としていて、会話をすればすぐ解かりますけれども、非常に日本人というのはインテリジェンスがあるというか、教養があつてしかも礼儀正しい。ですから向こうの人から見ると中国人とかインド人とかそれ以外のところは頭はないわけでしょうけれども、日本人とはすごいということが有ったと思います。それ以外にも幕末から留学生なども行ってます。或いは向こうからも日本に来ている人も居まして日本人に接していますし、日本人の留学生がまた向こうで非常に勉強が良くできて礼儀も正しいし、彼らが日本人の評価を作っていたこととも思いますが、外国人がまた日本に来まして良さを知っておりまして、そういうことがベースになっておりましたが、政治のトップリーダーがやってきて色々話をし色々会合にでたりして、理解力が凄く良いわけだし質問もどんどんしてきますし、日本人というのはすこし違ふなということを感じた様であります。向こうの新聞等についても非常に評価している。彼らが何故文明の格差がものすごく或るわけで、普通ですとそれを見て劣等感にとらわれて卑屈になってしまうことが考えられるんですが決してそうなら無かった彼らの自信といえますか誇りといえますかそういうものが持続できた背景は何かと考えてみますと、一つに使命感があった。日本が植民地化される危険があった。当時の人たちにとっては日本の独立をいかに確保するかということでした。その為には西洋の文明等を入れていかなければいけないという問題があった。危機感や問題意識が非常に強力であった、それが西洋の文明を勉強する面で一番真剣に取り組んだ、それから日本人

はなかなか優秀である。決して能力的には彼らに劣っていないということを云ってます。色々なところで工場を見学したり学校とか軍需教練とか鉄砲を撃つところを見ても向こうの人はあまり的中率が悪いと俺たちがやればもっとうまくやるんだがみたいなことを言ってみたり、工場の労働者が分業でやっているところを見るわけですが、彼らは理解が早い、俺たちならもっとうまくやる位のことを感じながら見ている所があります。江戸時代でも職人の世界では素晴らしい工芸的な技術をもっておりましたし、美的センスもありましたが、平安時代から既に素晴らしい技術力があつたわけですし、そういう芸術とか技術そういうものが日本の伝統の中にあつた。そういうものを持って旅をしていますから色々なものを見ても理解することが出来たし比較することが出来た。それを完全に消化して表現する事すら出来たと云うことだろうと思います。で米欧回覧実記という報告書を見ますと的確に理解して表現しております。それだけの力があつてこそ日本語に写し変えることが出来たというような状況があつたと思います。出来た背景には中国の古典、日本の古典特に歴史であるとか、倫理であるとか、侍の教養として寺子屋であるとか歴史の勉強しております。そういう古典が身につけて教養があつたから又理解し得たのではないかと思うのであります。西洋の科学技術的なことも、鎖国をしていたとはいえ長崎を通じて、オランダを通じて色々な物が入つていまして、岩倉使節団には福沢諭吉は参加はしていませんが、そういう背景があつたからこそ理解し伝えることが出来た。そうした教養がバックボーンにあつた。欧米の文明を見て日本と一番違う点は政治の目的が向こうは利益を誇っていることだといっていることだ云う言い方をしている。利益を追求し欲望を満たしていくのが社会全体の目標になっていて、政治家はそれをリードし、それを保護する。外国の侵略を保護し利益を守るのが政治家の目標であるというようなことをいっている。日本の方は道義なんですね、それこそが一番大事なものであり、その為に政治をし、その為にリーダーはある。経済とか特に侍の場合は金銭を蔑んでいて町民、百姓を一番下に見てたところがありますから悪い面もあるんですが、ただ彼らはお金とか物質とかに対してそれ程価値を置かなかつた。それ程幻惑されなかつた。もっと大事な物が道義・モラル徳と言う物に我々は仕事をする。また働くんであつて欧米と違うところであつて欧米の違うところ

を見てもそれに左右されなかつたのではないかと云う気がします。戦後我々はアメリカの影響が強くて一種の拝金主義になりました。お金の為それから名誉地位の為とか、そういう為すぐペコペコしてしまつたり、お辞儀をしてしまつたりすることが多くなつてしまつた。やはりリーダーたるものは当時侍の良き面、公の為にそれを大事に、一番の目標にする事に改めて考えないといけないのではないかと、ここまで物質が豊かになり、ある程度お金があるいみである時期だけに人間のどういうふうに解釈したら人間にとって一番大事な物は何なんだと、その所をもう一回考え直して見る必要が有るのでは、という風に思います。

これで終わります。どうも有り難う御座いました。

◎お 礼

◎点 鐘

会長 吉澤 洋景

(今週の担当 加藤)

